

平成17年度 岐阜県高等学校新人バスケットボール大会
 兼 東海高等学校新人バスケットボール大会県予選会
 最終日:平成18年2月5日(日)
 会場:岐阜メモリアルセンターふれ愛ドーム

男子の部

<審判>

5位決定戦 岐阜農林 96 $\left[\begin{array}{l} 27 - 16 \\ 19 - 15 \\ 24 - 18 \\ 26 - 21 \end{array} \right]$ 70 大垣工 藤浪元明・田村宣行

決勝リーグ 岐阜総合 106 $\left[\begin{array}{l} 26 - 22 \\ 27 - 17 \\ 23 - 30 \\ 30 - 15 \end{array} \right]$ 84 美濃加茂 増田博徳・相宮俊郎
 (1勝1敗) (1勝1敗)

岐阜総合はマッチアップゾーン、美濃加茂はシュートが決まるとゾーンプレス、その他はマンツーマンディフェンスを敷く。出だし、岐阜総合は今井のドライブイン、3点シュートで流れをつかむと、杉本のドライブイン、桑原のポストプレーでリードを奪う。美濃加茂は安藤の3点シュート、熊澤のシュートで追いつがる。

第2ピリオドに入ると、岐阜総合は吉原がリバウンドシュート、速攻と、コート狭しと走り回って、連続9得点をあげる。さらにリズムよくパスの回る岐阜総合は、杉本のドライブなどで着実に得点を加え、前半を53-39とリードして折り返す。美濃加茂は安藤が3本の3点シュートを決めるが、攻め手に欠けていた。

第3ピリオドに入ると、美濃加茂は熊澤が個人技を活かして次々に得点をあげ、安藤、波多野も要所でシュートを決め、76-69と7点差まで追い上げる。しかし第4ピリオドに入り、岐阜総合はトライアングルツーマンのディフェンスで相手の得点源を抑えると、村瀬が2連続の3点シュートやドライブイン、上村の2連続3点シュート、吉原の3点シュートと一気に20点引き離し、勝負を決した。(山田祐治)

決勝リーグ 中津川工 90 $\left[\begin{array}{l} 29 - 16 \\ 19 - 17 \\ 15 - 20 \\ 27 - 15 \end{array} \right]$ 68 高山西 大野貴司・大江裕之
 (2勝) (2敗)

第1ピリオド、両チームともマンツーマンでスタートする。5分を過ぎるまでは一進一退の攻防が続くが、中津川工はリバウンドからの速攻が決まり始め、29-16と13点をリードする。第2ピリオド、高山西はディフェンスをハーフコート1-2-2ゾーンに変え、インターセプトから速攻に走り2点差まで詰める。3分間ノーゴールだった中津川工はタイムアウトをとり、そこからディフェンスのプレッシャーを強め、攻めては速攻で次第に点差を広げていく。前半は中津川工が15点をリードし

第3ピリオド、高山西はディフェンスをオールコートマンツーマンに変え、スティールから速攻、新井のドライブからのレイアップで残り1分には差を1桁まで縮める。その後、互いにシュートが入り、63-53と中津川工が10点リードして最終ピリオドへ。

第4ピリオド、オールコートマンツーマンでプレッシャーをかける高山西だが、3分を過ぎても差は縮まらない。中津川工は島崎の3点シュート、土井のシュートで16点差とする。さらに水野の連続シュートで差を20点とすると、あとは落ち着いたパス回しで、相手のディフェンスをかわし、90-68で高山西を下し、決勝リーグ2勝目をあげた。(早川佳吾)

決勝リーグ 美濃加茂 100 $\left[\begin{array}{l} 27 - 8 \\ 33 - 14 \\ 19 - 16 \\ 21 - 17 \end{array} \right]$ 55 中津川工 室谷伸治・三浦 潔
 (2勝1敗) (2勝1敗)

両チーム、ハーフコートマンツーマンディフェンスでスタートする。美濃加茂は、松葉のアシストから熊澤が得点を重ね、リズムをつかむ。中津川工も、土井がインサイドで頑張りを見せるが、美濃加茂の勢いを止めることができない。美濃加茂は、熊澤が第1ピリオドで14得点をあげる活躍で、完全にゲームの主導権をつかむ。

第2ピリオド、中津川工はディフェンスを3-2ゾーンに変え、流れをつかもうとする。しかし、美濃加茂は安藤が3点シュートを3本決めるなど、流れは変わらない。美濃加茂は前半で60-22とし、ほぼ勝敗を決定づけた。

第3ピリオド、美濃加茂は熊澤のオールラウンドの活躍で勢いが止まらない。中津川工も、近藤、島崎が3点シュートを決め、食い下がろうとする。

第4ピリオド、必死のディフェンスを見せた美濃加茂が100-55で中津川工を下した。その結果、美濃加茂、岐阜総合、中津川工の3チームが2勝1敗で並んだが、ゴールアベレージでわずかに上回った美濃加茂が、今年の県選抜大会に続く優勝を勝ち取った。(岩永英夫)

決勝 リーグ	岐阜総合	130	$\begin{bmatrix} 35 - 17 \\ 25 - 25 \\ 35 - 11 \\ 35 - 9 \end{bmatrix}$	62	高山西	松野瑞穂・棚橋英一
	(2勝1敗)				(3敗)	

第1ピリオド、岐阜総合は3-2ゾーン、高山西はハーフコートマンツーマンのディフェンスで始まる。岐阜総合は、相手のターンオーバーから杉本、村瀬、今井らが着実に加点し、流れをつかむ。高山西も水本のバスケットカウントでつなぐが、開始5分で3ファウルとなり交代を余儀なくされる。その後お互いにアップテンポな展開となるが、着実に加点した岐阜総合が差を広げる。

第2ピリオド、高山西はディフェンスを3-2ゾーンに変え先手を取るが、岐阜総合の勢いは止まらず、吉原のインサイド、上村の3点シュートで引き離しにかかる。前半は、岐阜総合が18点

第3ピリオド、岐阜総合は吉原の3点シュート、インサイドプレーが続けて決まり、さらにディフェンスを1-1-3に変えて主導権を握る。得意のアップテンポな展開で立て続けに速攻を決め、相手のゾーンを早いパッシングで崩し、村瀬、そして上村が3点シュートを沈め、優位に立つ。

第4ピリオドも、流れを断つことなくメンバー全員が出場した岐阜総合が大差をつけて勝利し、2勝1敗とした。高山西も天満がよくシュートを決めたが、走力、シュート力で相手に及ばなかつ

女子の部

< 審判 >

5位決定 戦	多治見西	79	$\begin{bmatrix} 19 - 15 \\ 19 - 12 \\ 24 - 12 \\ 17 - 18 \end{bmatrix}$	57	土岐商	小森邦弘・津田健介
決勝 リーグ	岐阜女子	129	$\begin{bmatrix} 34 - 10 \\ 41 - 3 \\ 32 - 8 \\ 22 - 9 \end{bmatrix}$	30	県岐阜商	細井恒樹・加藤明子
	(2勝)				(2敗)	

両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。第1ピリオド、岐阜女子は激しいプレッシャーで相手のターンオーバーを誘いリズムをつかむと、田中(優)のドライブ、小野のシュート、芽谷の3点シュートで得点を重ねる。県岐阜商は梶野のドライブ、小坂井の3点シュートで得点するものの、ボールを楽にコントロールさせてもらえず、苦しい展開になる。

第2ピリオド、岐阜女子はオールコートマンツーマンで足を止めず走り回り、前半で75-13と大量リードを奪い、試合の主導権を完全に握る。

第3ピリオド以降、岐阜女子はベンチメンバーを投入するが、攻撃の勢いは止まらず、山川、恩田が得点を伸ばし、129-30の大差で県岐阜商を下し、決勝リーグ2勝目をあげた。県岐阜商も山北、高橋、小坂井がよくシュートを決めるが、高さ、スピードとも及ばなかった。(三浦広和)

決勝 リーグ	高山西	78	$\begin{bmatrix} 31 - 15 \\ 19 - 16 \\ 13 - 13 \\ 15 - 15 \end{bmatrix}$	59	岐阜総合	小泉純子・杉山広之
	(2勝)				(2敗)	

両チームともハーフコートマンツーマンでスタートする。高山西は終始ボールを止めない素早いオフェンスで相手のディフェンスの間をつき、張のインサイドや、畦地のリバウンドシュート、佐藤の3点シュートなどで確実に得点を重ねていく。岐阜総合も、ペイント内はダブルチームで張や 畦地のインサイドを防ごうとするが、ファウルを重ねてしまう。前半は、高山西が50-31とリードを奪う。

第3ピリオドに入っても、高山西はハーフコートをいっぱい使ったスピードのある攻撃、オフェンスリバウンドなどでボールを支配し、確実に得点を伸ばす。

第4ピリオドも、高山西は 小林、 中川(梢)のシュートなどで試合の主導権を譲らず、決勝リーグ2勝目をあげた。岐阜総合も、後半はオールコート2-2-1ディフェンスを仕掛けて相手の出足を止め、 杉山のインサイドプレー、 宮崎の3点シュートなどで互角の戦いを見せたが、第1ピリオドの失点が最後まで響いた。(田中友恵)

決勝 リーグ	岐阜女子	108	$\begin{bmatrix} 30 - 13 \\ 29 - 7 \\ 35 - 10 \\ 14 - 23 \end{bmatrix}$	53	高山西	増田博徳・神山元秀
	(3勝)				(2勝1敗)	

岐阜女子は2-2-1からマンツーマン、高山西は2-3ゾーンディフェンスでスタートする。岐阜女子は、190cmの相手センター(張)の高さを意識して思うように攻められず、立ち上がりは一進一退の展開となった。高山西は 張の攻守に渡る活躍で加点する。しかし開始5分から、岐阜女子は 田中(優)のポストプレー、 芽谷の3点シュートなどで加点し、堅いディフェンスからの速攻で一気に相手を引き離していく。第2ピリオドに入っても岐阜女子の勢いは止まらず、 小野の3点シュート、 安井の速攻などで次々と得点が決まり、59-20と大量リードで前半を折り返す。

後半も岐阜女子は攻撃の手を緩めず、 芽谷、 伊藤らが内外角から得点を重ねていく。高山西も 張がインサイドで、 佐藤が3点シュートで食い下がるも、岐阜女子の堅いディフェンスを崩すことはできなかった。結局、108-53と岐阜女子が大差で決勝リーグ3勝目をあげ、16年連続17回目の優勝を果たした。(長屋 貴)

決勝 リーグ	県岐阜商	81	$\begin{bmatrix} 16 - 8 \\ 24 - 12 \\ 19 - 14 \\ 22 - 23 \end{bmatrix}$	57	岐阜総合	小野卓也・野原徹二
	(1勝2敗)				(3敗)	

両チーム2敗同士で、東海大会出場をかけた試合となった。県岐阜商はハーフコートマンツーマン、岐阜総合は1-3-1ゾーンで始まった。お互いに厳しいディフェンスで相手に簡単にシュートを打たせず、第1ピリオドはロースコアの展開となった。第2ピリオド、県岐阜商は 赤石を中心にインサイドで得点を重ねリズムをつかむ。岐阜総合も得意の3点シュートで攻めるが、リングに嫌われ得点に結びつけられない。前半は40-20と県岐阜商のリードで終了した。

後半に入り、岐阜総合はディフェンスをハーフコートマンツーマンに変え、2連続インターセプトから得点をあげるなど反撃に出る。しかし県岐阜商は、 小野島が落ち着いて3点シュート、ミドルシュートを決め相手の反撃を許さない。第4ピリオド、岐阜総合はディフェンスに変化をつけ、 杉山、 角野らがシュートを決めるが、県岐阜商も 小倉の活躍で得点を伸ばす。結局、前半のリードを守りきった県岐阜商が勝利した。(井口貢志)